

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

<施工の前に>

**注意**

- 崖上や風の通り道上等の強風地域及び冬季に積雪がある地域への施工は避けてください。
- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
- 引戸の作動範囲に障害物がないか確認してください。

**ポイント**

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。
- 規格表、梱包明細で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジ等にゆるみがないか確認してください。

🔑ポイント

- 商品の施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度等、性能を低下させる場合発生します。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 施工終了後は引戸の開閉チェックを行い、不具合がないか確認してください。

<電気配線工事について>

⚠ 注意

- AC100Vの電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。
- 施工には、別途過電流保護付漏電ブレーカーおよび埋設用PF管（呼び径14）、電線ケーブル、アース棒が必要となりますので、用意してください。
- 電動用電線ケーブルは必ず過電流保護付漏電ブレーカーに接続してください。
- 電動支柱（支柱）には必ずアース（D種接地工事）をとってください。

<基礎工事について>

⚠ 注意

- 基礎施工寸法の柱埋込み位置は、性能や耐久性、安全上重要ですので必ずお守りください。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。

🔑ポイント

- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決まっていますが、現場によっては（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分考慮してください。
- 塩分を含む砂および塩素系のモルタル混和剤は使用しないでください。腐食の原因になります。
- コンクリート（またはモルタル）には、急結剤を使用しないでください。使用すると腐食の原因になります。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。

梱包明細書

【1】 電動ユニットセット

名 称	略 図	員 数
電動ユニット AC100V *左引き用(右引き用)		1
電動ユニット取付金具		2
マグネットスイッチ		1
配線カバー用キャップ		2
穴あけ用加工治具		1
チェーン抑え材		1
チェーン抑え材サイドカバーA		1
チェーン抑え材サイドカバーB		1
リモコン送信器 (小箱入り)		1
【1-1】 M6×25六角ボルト		4
【1-2】 M6ターンナット		4
【1-3】 φ4×8トラスタッピンネジ		1
【1-4】 M4×35ナベドリルネジ		2
【1-5】 φ4×10トラスタッピンネジ		4
取付説明書	—	1
取扱説明書(保証書付)	—	1

【2】 チェーンケース セット

名 称	略 図	員 数	
		エスライド A・B・E型	エスライド C・D型
チェーンケース		1	—
チェーンケースC・D型		—	1
チェーンケースステイC型用		—	6
チェーンケースステイD型用		—	1
チェーンケース端部カバー (右)		1	1
チェーンケース端部カバー (左)		1	1
配線カバー		1	1
【2-1】 φ4×13ナベドリルネジ		14	19

【3】 オプション

名 称	略 図
リモコン送信器 <8DDK19ZZ>	

1.各部の名称および基本寸法図

※ () 寸法は、H1400引戸を施工した場合を示します。

※ 図は、エスライド片引きタイプ(左引き)です。

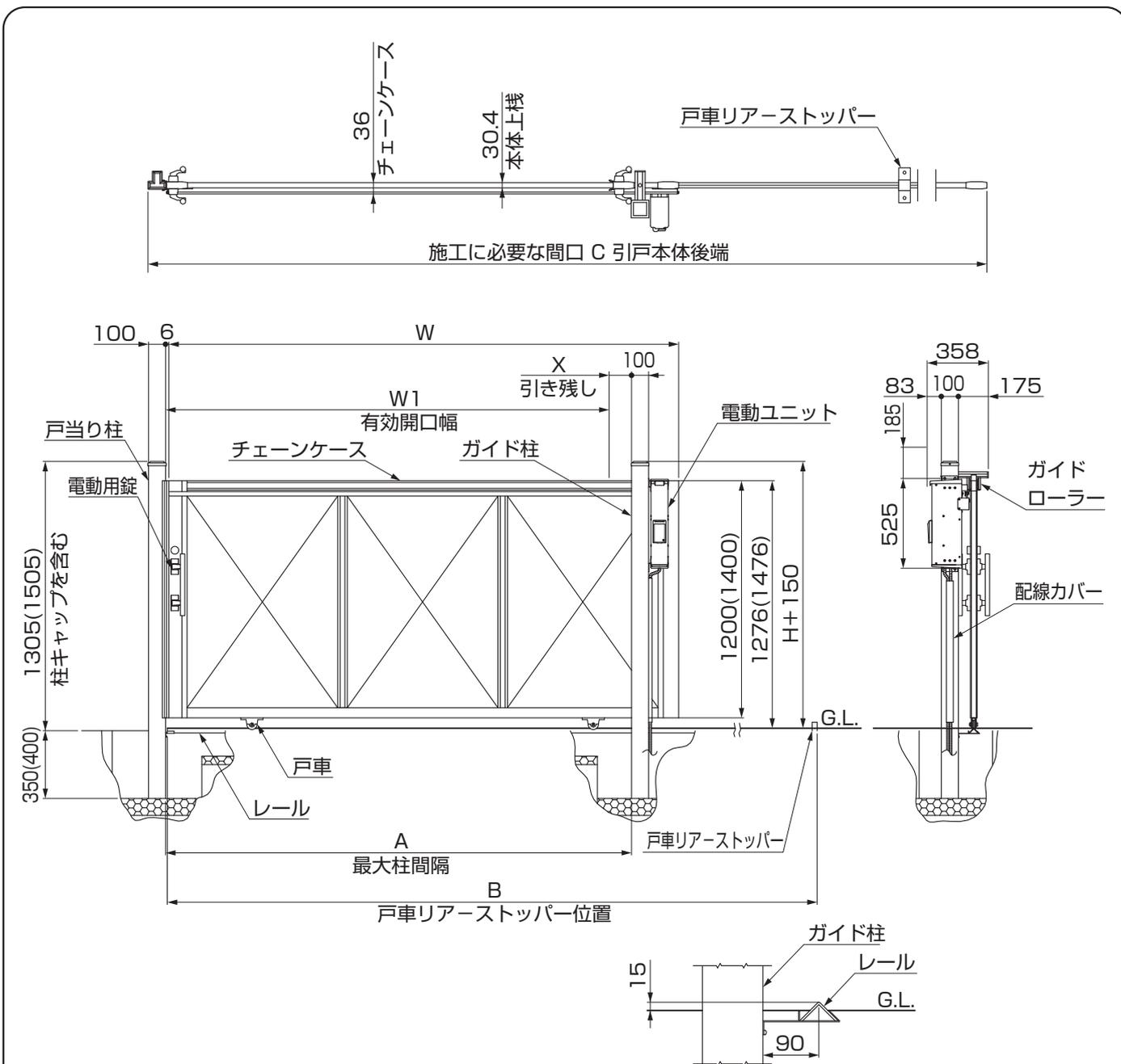


表1-1 施工寸法表

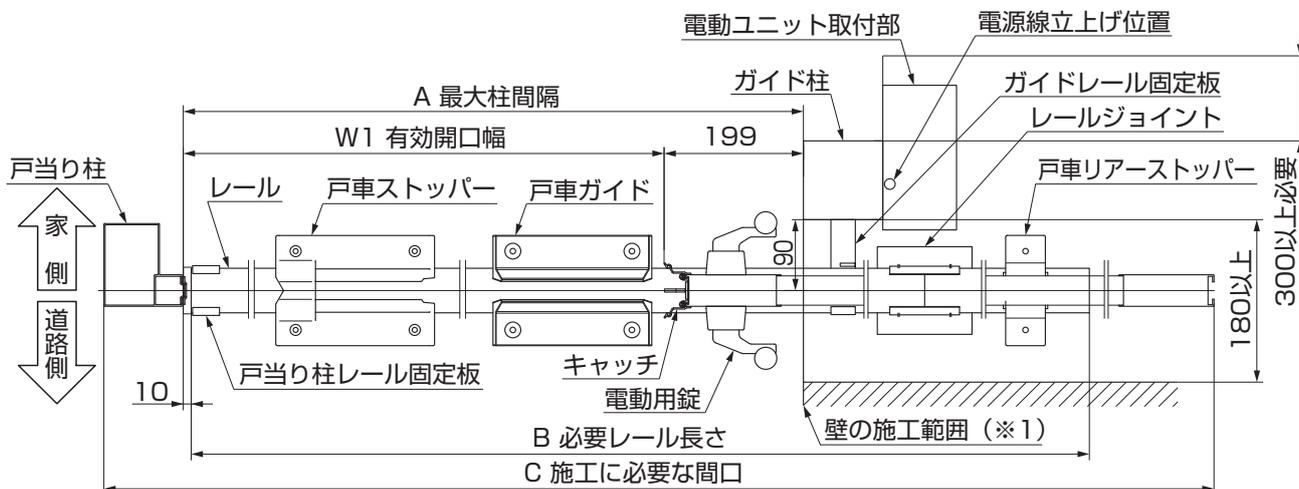
	W	W1	A	B	C	X
エスライド引戸 W30	3000	2525	2723	5008	5655	199
エスライド引戸 W35	3500	3025	3223	6008	6655	199

補足

- 戸車リアーストッパー位置は最大柱間隔で施工したときの目安の位置です。
戸車リアーストッパーの施工は引戸本体の設置後に正確な位置に施工してください。

2.基本寸法図

2-1 施工寸法図



ポイント

- 壁の施工はガイド柱の位置までにしてください。ガイド柱より戸当方向へ施工するとハンドルが干渉します。(※1)
- 寸法については、表1-1を参照してください。

2-2 施工パターン

施工パターン表

	左引き	右引き
パターン① (通常の施工)		
パターン②		

ポイント

- 電動ユニットには、左引き用と右引き用があります。施工パターン表にて確認してください。
- 電動ユニットが「2-1 施工寸法図」に納まらない場合、パターン②の施工となります。その際、有効開口幅は施工寸法表と異なり、電動ユニット分小さくなりますのでご注意ください。

3.チェーンケースの取付け

※チェーンケースは、必ず引戸本体の家側に取付けてください。「2-2 施工パターン」参照。

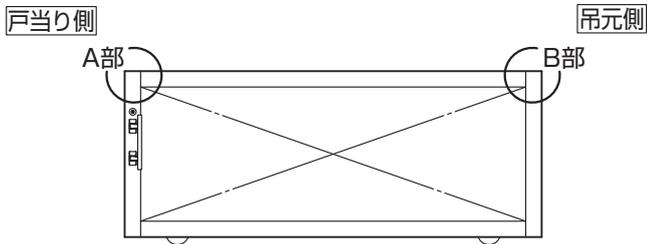
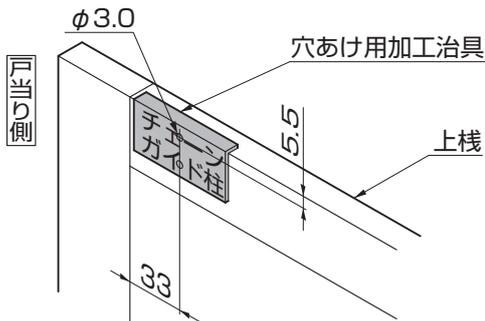


図3-1



位置出し下穴加工
A部拡大図

3-1 エスライドA・B型の場合

【2-1】 $\phi 4 \times 13$ ナベドリルネジ

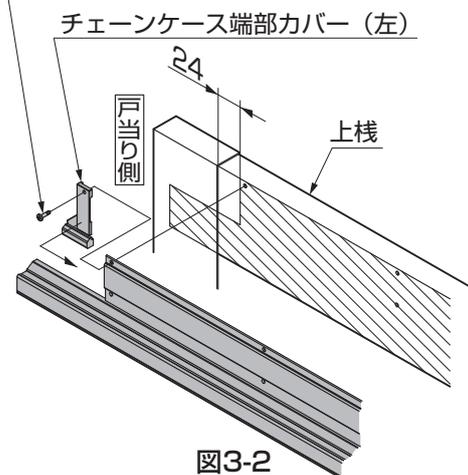
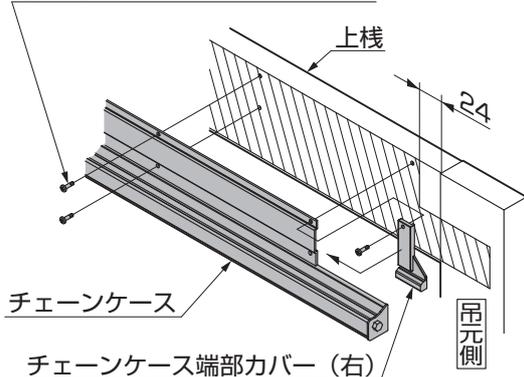


図3-2

【2-1】 $\phi 4 \times 13$ ナベドリルネジ



B部拡大図

①家側が上になるように引戸を横にしてください。

ポイント

●引戸にキズがつかないように十分注意してください。

②穴あけ用加工治具を上棧の戸当り側にあてて位置出しの穴をあけてください。(A部拡大図参照)

ポイント

●穴あけ用加工治具は、上棧の戸当り側いっぱいまであててください。

③穴あけ用加工治具のチェーンと記されている穴に沿って $\phi 3.0$ の下穴をあけてください。

ポイント

●穴あけ用加工治具は上棧用とガイド柱用で兼用となっていますので注意してください。

①チェーンケース端部カバーをチェーンケース裏側より挿入し、スライドさせて差込んでください。(図3-2参照)

②チェーンケースを【2-1】で仮止めしてください。(図3-2参照)

補足

●チェーンケース端部カバーはチェーンケースの下側の穴にはネジ止めしません。

●【2-1】は余る場合があります。余ったネジは使用しません。

③吊元側から順番にチェーンケースの穴に沿って $\phi 3.0$ の下穴をあけ、【2-1】で取付けてください。(B部拡大図参照)

補足

●必ずチェーンケースの上面と上棧の上面を合わせてください。

●【2-1】は、必ず「手締め」で取付けてください。電動ドライバを使用すると、下穴が破損し取り付けできなくなります。

3-2 エスライドC型の場合

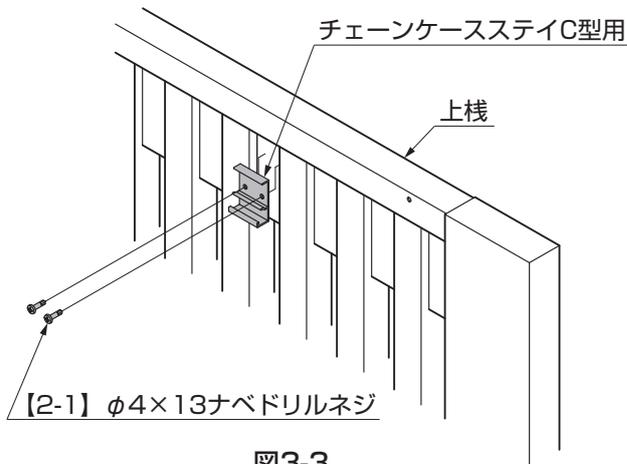


図3-3

[2-1] φ4×13ナベドリルネジ

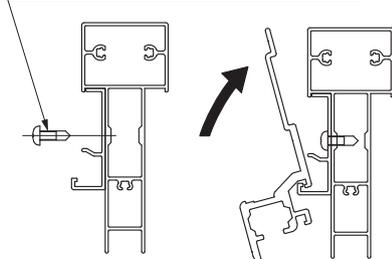


図3-4

図3-5

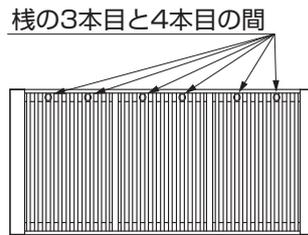


図3-6

[2-1] φ4×13ナベドリルネジ

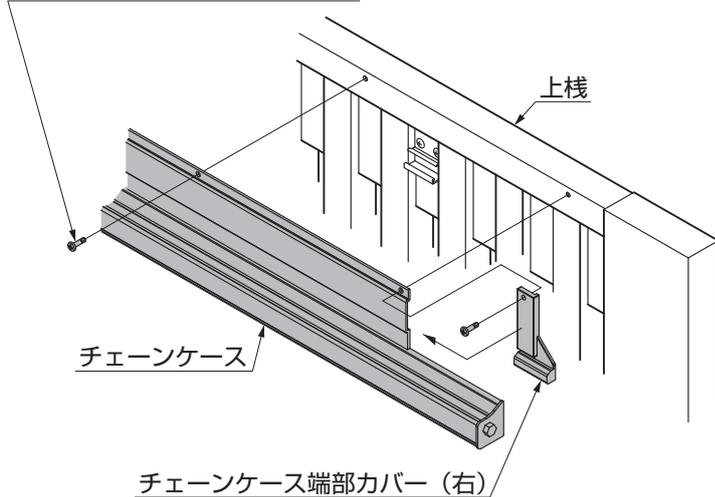


図3-7

[2-1] φ4×13ナベドリルネジ

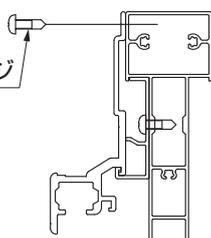


図3-8

- ①チェーンケースステイを上棧に【2-1】で取付けてください。

補足

- チェーンケースステイC型用は上に押しつけるように取付けてください。
- チェーンケースステイC型用を取付ける位置は縦残の3本目と4本目の間です。(図3-6参照)

- ②チェーンケース端部カバーをチェーンケース裏側より挿入し、スライドさせて差込んでください。
- ③チェーンケースをチェーンケースステイに引っ掛け、穴あけ用加工治具であけておいた穴に【2-1】で仮止めしてください。

補足

- チェーンケースを引っ掛けたときにチェーンケースの上面と上棧の上面が揃うことを確認してください。

- ④吊元側から順番にチェーンケースの穴に沿ってφ3.0の下穴をあけ、【2-1】で取付けてください。

補足

- 【2-1】は、必ず「手締め」で取付けてください。電動ドライバを使用すると、下穴が破損し取り付けできなくなります。
- チェーンケースステイD型用は使用しません。

3. (つづき)

3-3 エスライドD型の場合

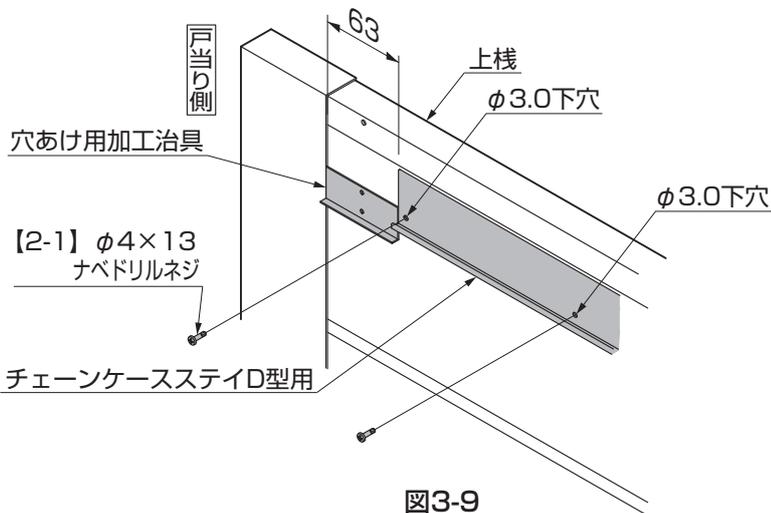


図3-9

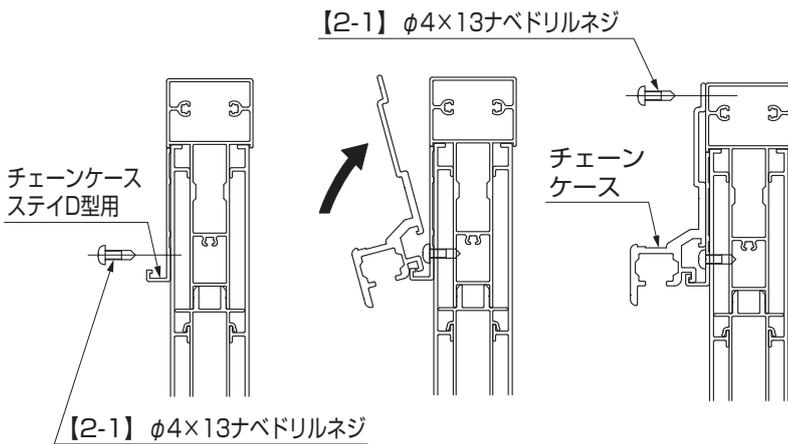


図3-10

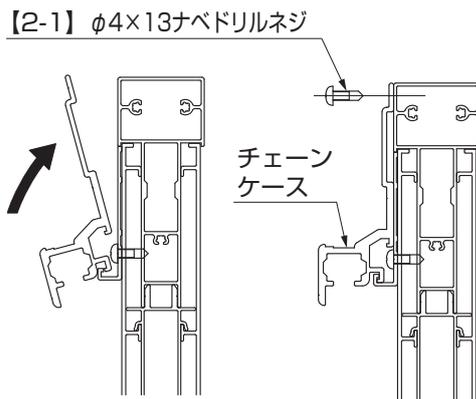


図3-11

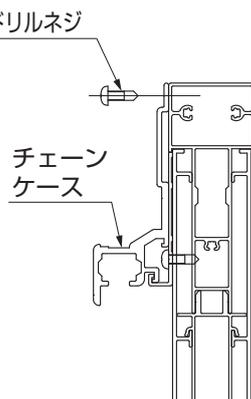


図3-12

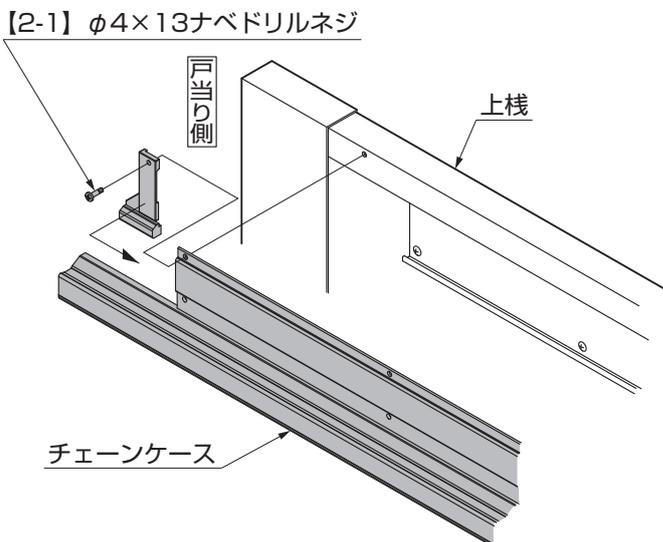


図3-13

- ①穴あけ用加工治具を框に当てチェーンケースステイD型用を位置決めし、チェーンケースステイD型用の穴に沿ってφ3.0の下穴をあけてください。

補足

- チェーンケースステイD型用は上に押しつけるように位置決めしてください。

- ②チェーンケースステイD型用を【2-1】で取付けてください。

補足

- 【2-1】は、必ず「手締め」で取付けてください。電動ドライバを使用すると、下穴が破損し取り付けできなくなります。

- ③チェーンケース端部カバーをチェーンケース裏側より挿入し、スライドさせて差込んでください。

- ④チェーンケースをチェーンケースステイに引っ掛け、穴あけ治具であけておいた穴に【2-1】で仮止めしてください。

補足

- チェーンケースを引っ掛けたときにチェーンケースの上面と上棧の上面が揃うことを確認してください。

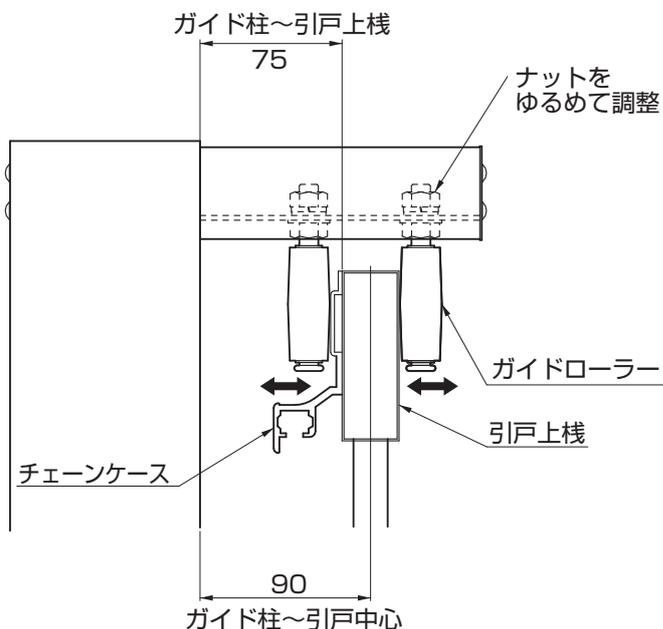
- ⑤吊元側から順番にチェーンケースの穴に沿ってφ3.0の下穴をあけ、【2-1】で取付けてください。

補足

- 【2-1】は、必ず「手締め」で取付けてください。電動ドライバを使用すると、下穴が破損し取り付けできなくなります。
- チェーンケースステイC型用は使用しません。

4.引戸の取付けおよびガイドローラーの調整

※引戸をレールにセットし、引戸にガタつきがなくなるようにガイドローラーの調整をしてください。



ポイント

●ガイドローラーを固定している4ヶ所のナットをゆるめることにより、ガイドローラーの位置と幅の調整ができます。

- ①図の寸法に従い、ガイドローラーの位置を調整し、上棧とチェーンケースにガイドローラーが軽く接触するまで幅を調整してください。
- ②調整後は、ネジをしっかりと締めてください。

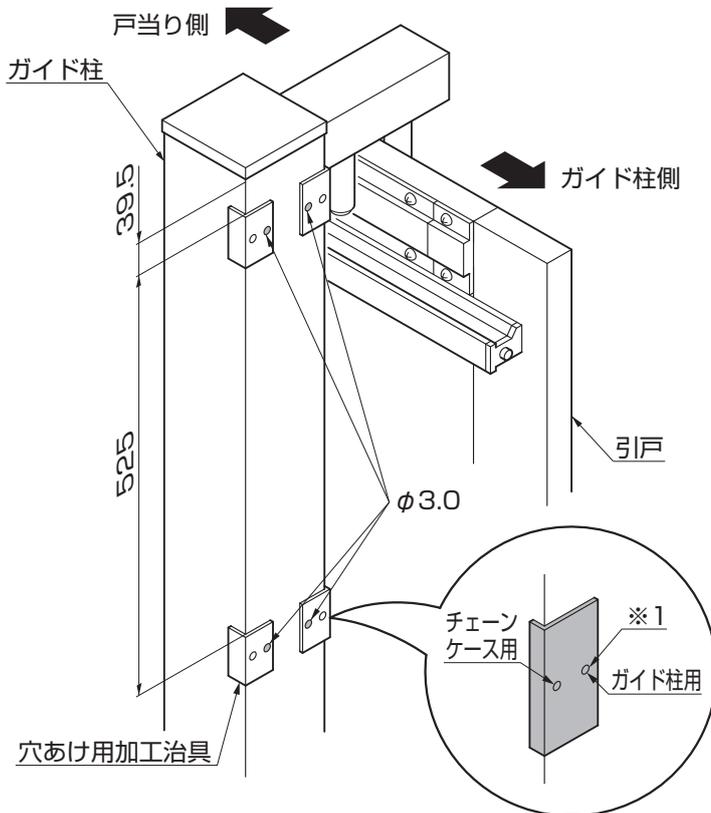
補足

●必ず手で全開、全閉作動をさせ、戸当り、戸車ストッパー等の位置や引戸の動きに異常がない事を確認してください。異常がある場合は、必ず調整してください。電動での作動に影響を及ぼします。

5.電動ユニットのガイド柱への取付け

※ガイド柱に電動ユニットを取付けるための穴加工を行います。

5-1 ガイド柱への穴加工



ポイント

●「2-2 施工パターン」を参照しガイド柱に取付ける方向を確認してください。

①穴あけ用加工治具を、図の穴あけ用加工治具のガイド柱と記されている穴(※1)に従い、 $\phi 3.0$ の下穴を4ヶ所あけてください。

ポイント

●穴あけ用加工治具は上枠用とガイド柱用で兼用となっていますのでご注意ください。
●加工した穴位置が〔参考〕各引戸のガイド柱加工位置の寸法になっているか必ず確認してください。

②穴位置を確認した後、 $\phi 10$ の穴をあけてください。

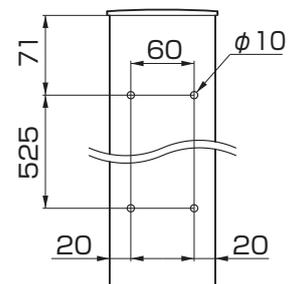
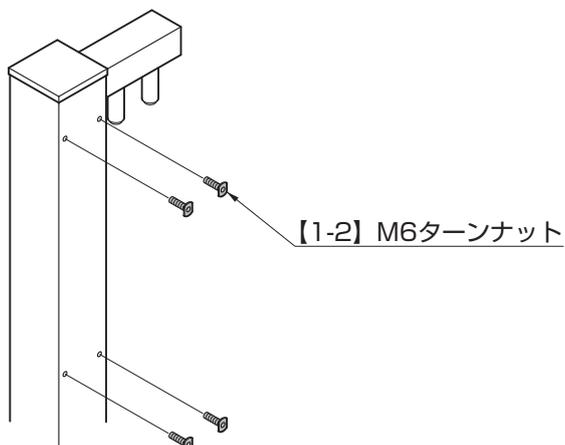


図5-1 ガイド柱加工位置

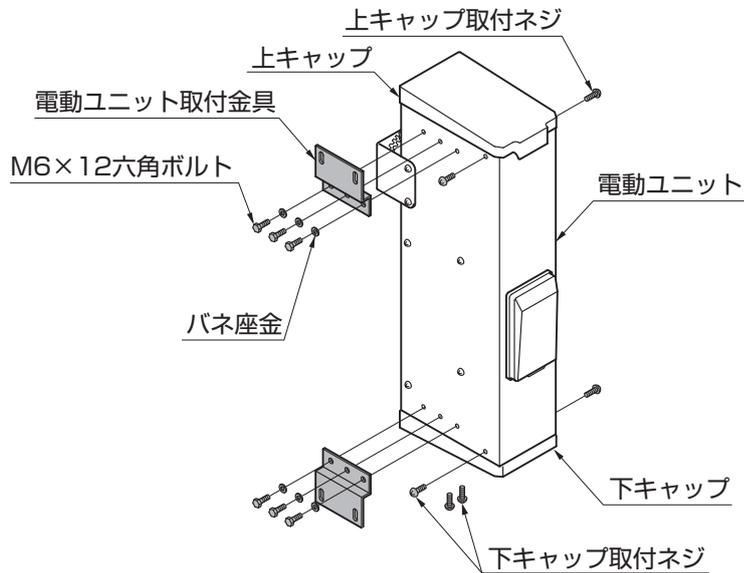
5-2 ターンナットの取付け



① 5-1であけた $\phi 10$ の穴に【1-2】を挿入してください。

5-3 電動ユニットの取付け

(1) 電動ユニットの取付け前の準備

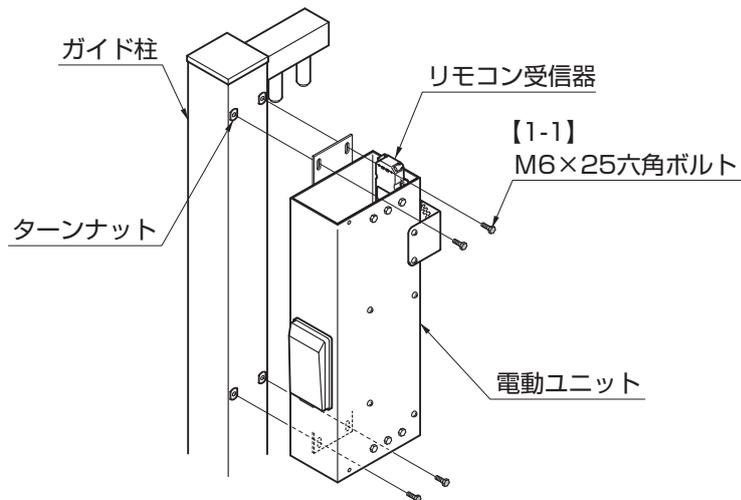


- ① 電動ユニットの上下のキャップをそれぞれはずしてください。
- ② 電動ユニットを取付ける面の上下にある六角ボルトM6×12とバネ座金を6本はずしてください。
- ③ 電動ユニット取付金具を図に従いはずした六角ボルトとバネ座金で取付けてください。

ポイント

- 取外したネジは再度使用します。

(2) 電動ユニットのガイド柱への取付け

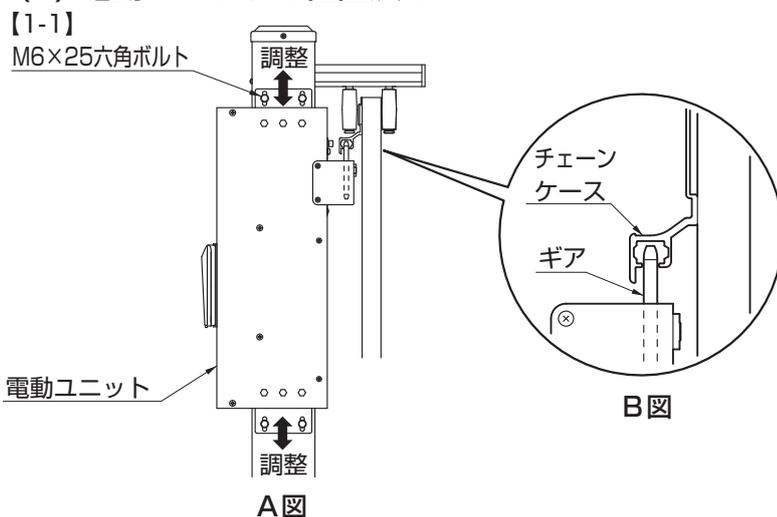


- ① 電動ユニットを【1-1】で、ガイド柱に仮固定してください。

補足

- 電動ユニット取付時は、リモコン受信器に注意してください。

(3) 電動ユニットの位置決め



- ① (2) で仮固定した【1-1】をゆるめてください。(A図参照)
- ② 電動ユニットを上へ動かし、ギアとチェーンケース内のチェーンが、しっかりかみ合うように調整してください。(B図参照)
- ③ 位置が決まったら、【1-1】を締め、しっかり固定してください。

6.チェーン抑え材の取付け

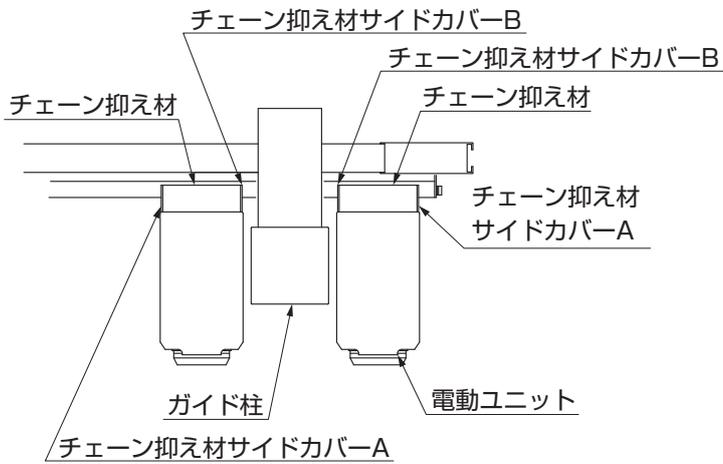


図6-1

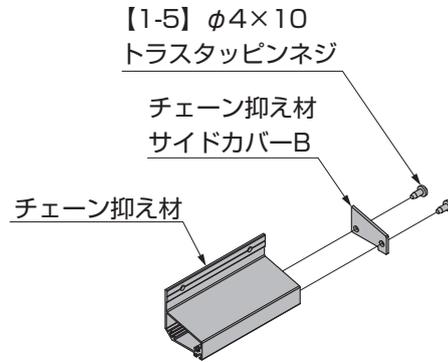


図6-2

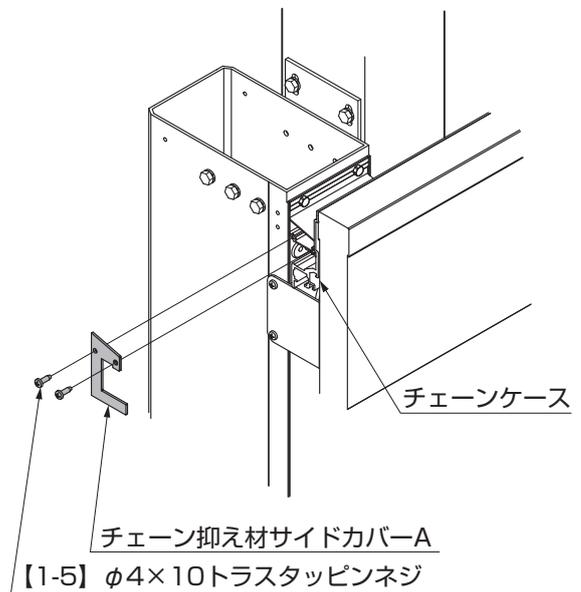
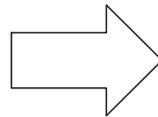
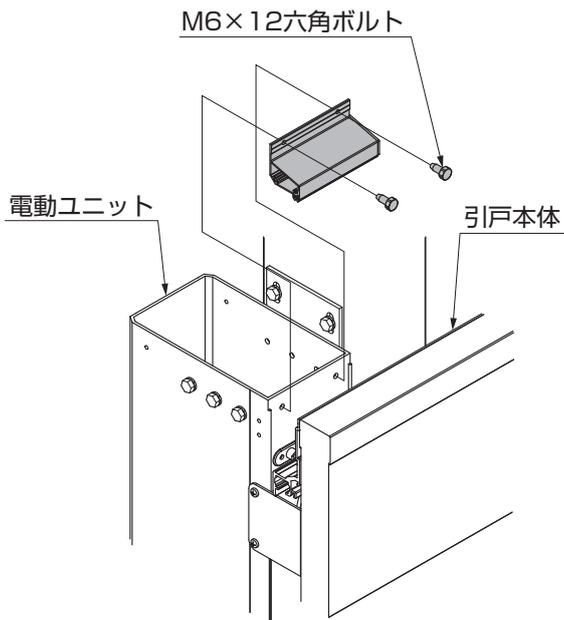


図6-3

- ①方向を確認してチェーン抑え材にチェーン抑え材サイドカバー-Bを【1-5】で取付けてください。(図6-1、図6-2参照)
- ②電動ユニットに取付いているM6×12六角ボルトを取外し、チェーン抑え材を取外したボルトで組付けてください。(図6-3参照)
- ③チェーン抑え材サイドカバー-Aを【1-5】で取付けてください。(図6-3参照)

7.全閉・全開の作動確認

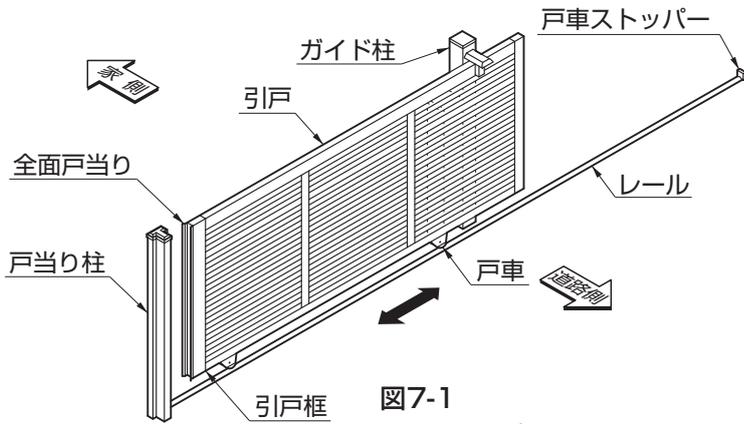


図7-1

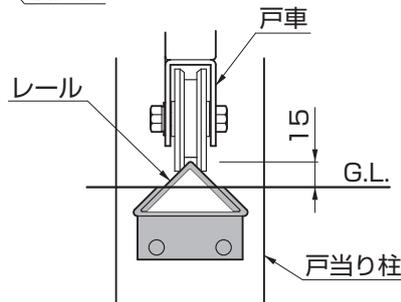


図7-2

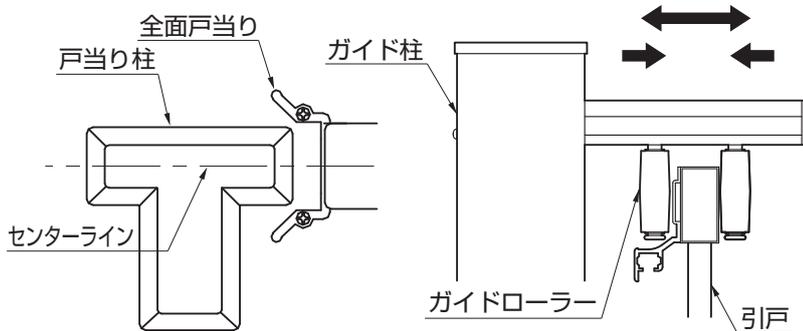


図7-3

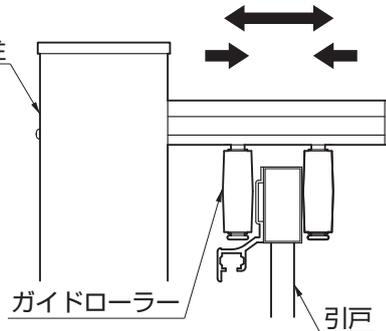


図7-4

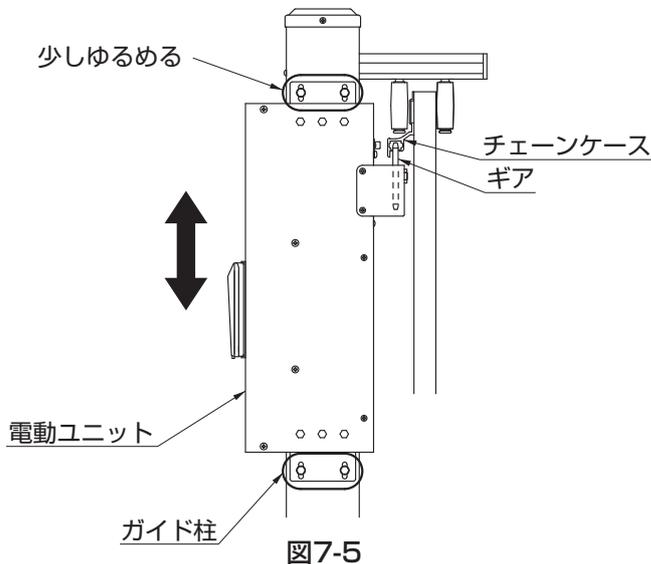


図7-5

- ① 戸車ストッパーにあたるまで引戸を開けたとき、錠(取手)とガイド柱があたっていないか確認します。
あたっていたら戸車ストッパーをガイド柱方向に移動してください。(図7-1参照)
- ② レールにモルタル、土、砂が付いていないか確認します。
汚れていたら、それらを取り除いてください。
- ③ 戸車がG.L.に触れていないか確認します。
触れていたら、G.L.を削りレールの山頂点が15mm以上出るようにしてください。(図7-2参照)

ポイント

- 戸車とレールのかみ合わせが悪いと、作動中に戸車が脱輪するおそれがあります。

- ④ 全面戸当りと戸当り柱のセンターラインが合っているか確認します。
ずれていたら、ガイドローラーを調整してセンターラインを合わせてください。(図7-3、図7-4参照)

ポイント

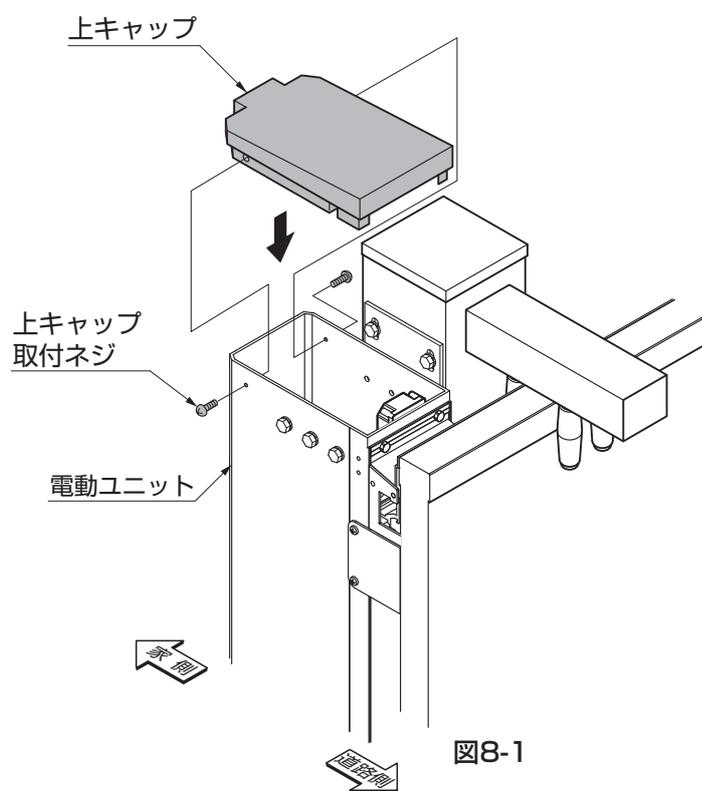
- ガイドローラーの間隔は、引戸上枠へ軽く接触するくらいまで狭めてください。(図7-4参照)

補足

- 引戸のセンターラインが合っていないと、強風時等に全面戸当りが戸当り柱におさまらないことがあります。

- ⑤ 動かしたときガタガタと異音が出ていないか確認します。
異音があったら、電源ユニットを上下にずらして異音がなくなるように調整してください。(図7-5参照)

8.上キャップの取付け



- ①上キャップを電動ユニットに上からかぶせ、上キャップ取付ネジで取付けてください。

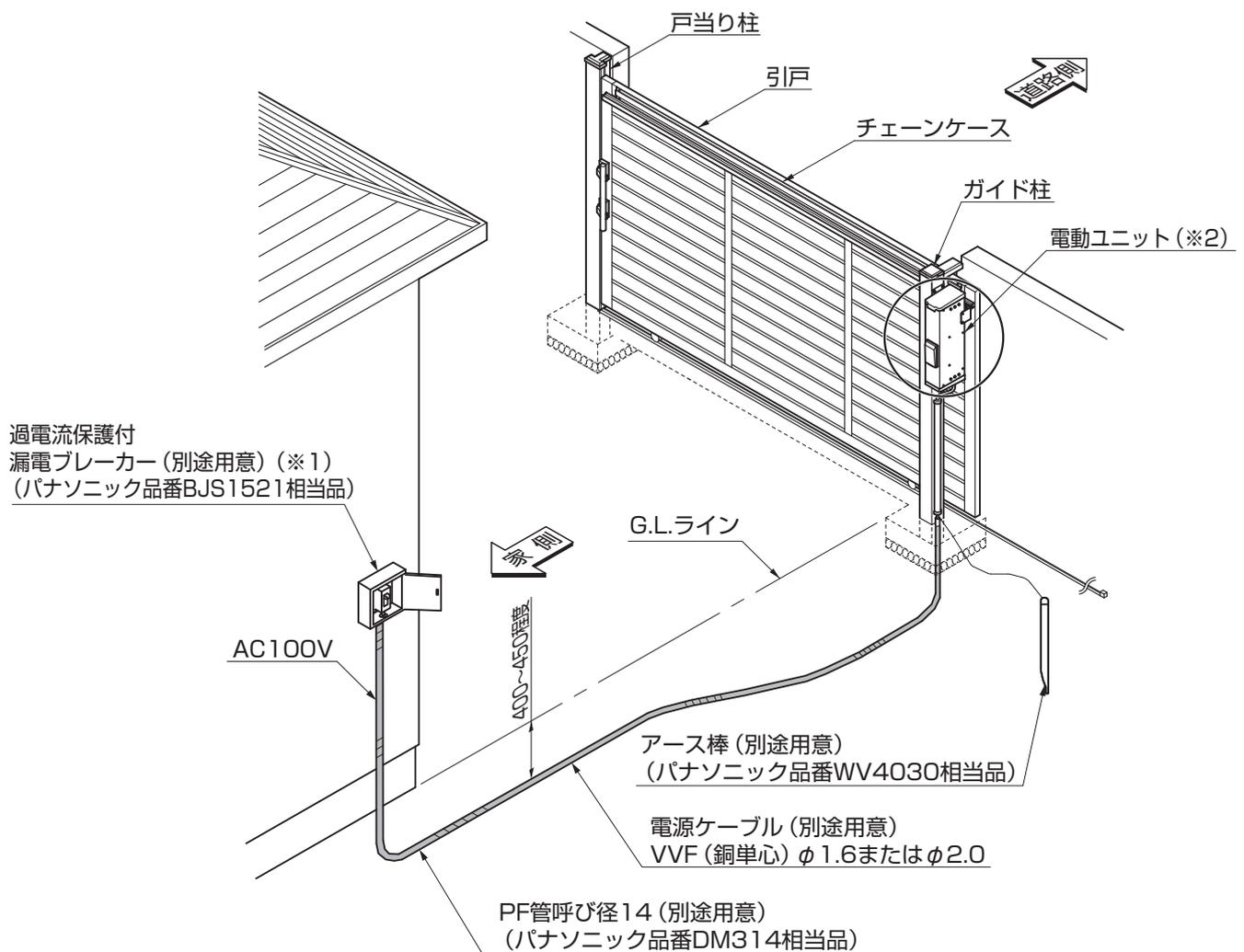
図8-1

9.配線

⚠ 注意

- AC100V線の施工に関しては、電気工事の有資格者に依頼してください。

9-1 電源の配線



🔑ポイント

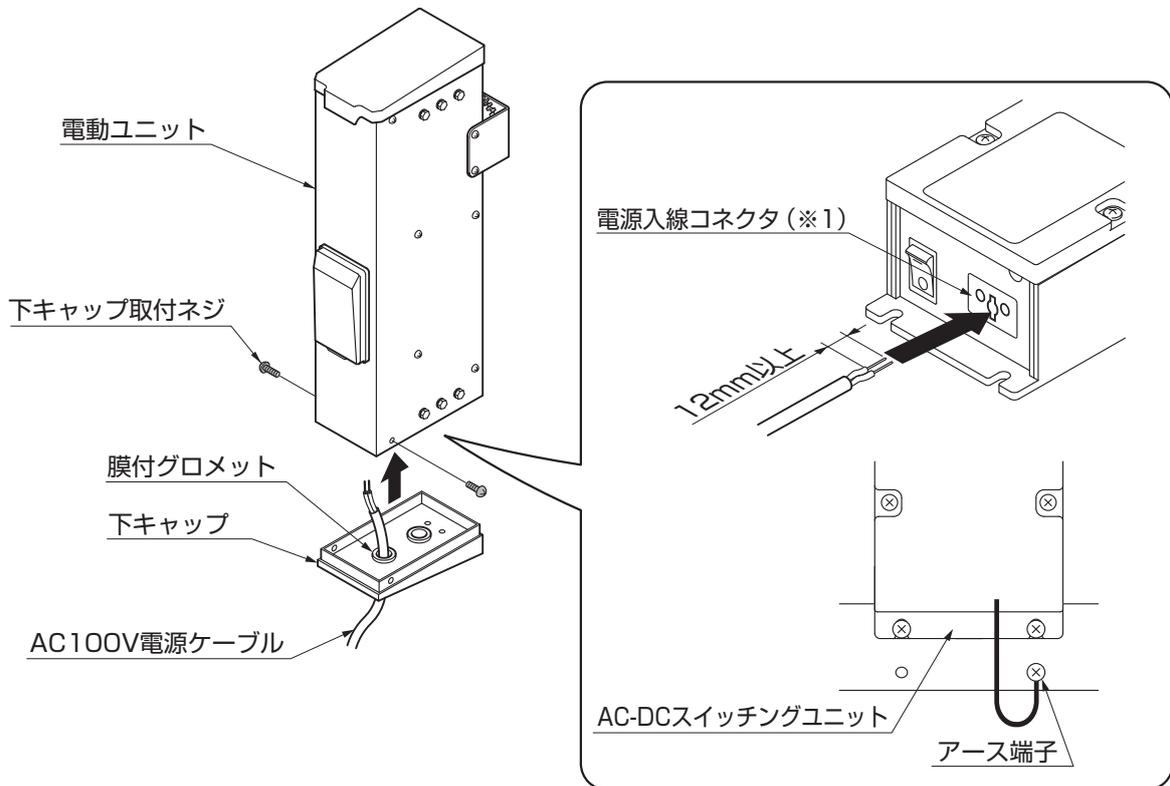
- 施工には、別途過電流保護付漏電ブレーカーおよび埋設用PF管(呼び径14)、電線ケーブル、アース棒が必要になりますのでご用意してください。

⚠ 注意

- 電源用電線ケーブルは必ず過電流保護付漏電ブレーカーに接続してください。(※1)
- 電動ユニットには、D種接地工事を行ってください。(※2)
- 電源の配線工事はブレーカーを切って行ってください。通電状態で行なうと感電の原因になります。

9. (つづき)

9-2 コントロールボックスの配線



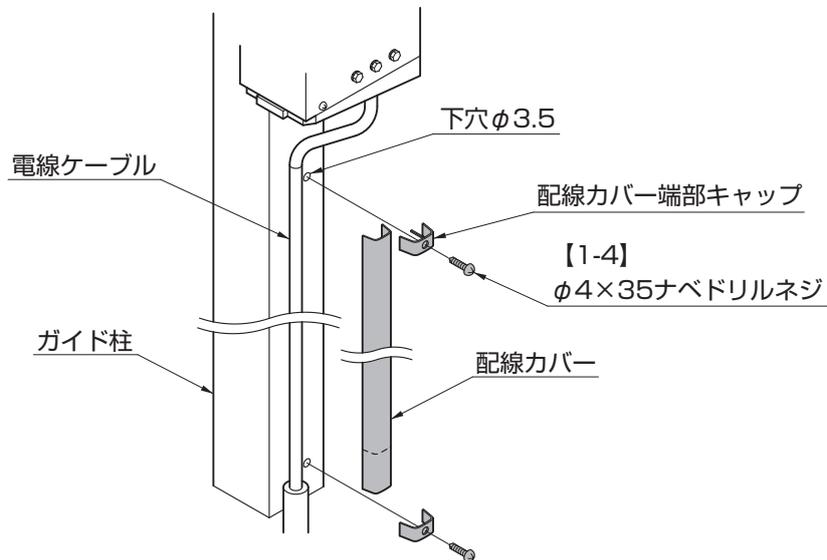
- ①膜付グロメットにカッターなどで切れ目を入れてください。
- ②AC100V電源ケーブルを膜付グロメットの切れ目から通し、AC-DCスイッチングユニットの電源入線コネクタの奥まで差し込んでください。(銅単心部は12mm以上必要です。)

補足

- AC100V線を、必ずAC-DCスイッチングユニットの電源入線コネクタに差し込んでください。(※1)

- ③ケーブルの接続が終了したら、電動ユニットに下キャップを取付けてください。

10.配線カバーの取付け



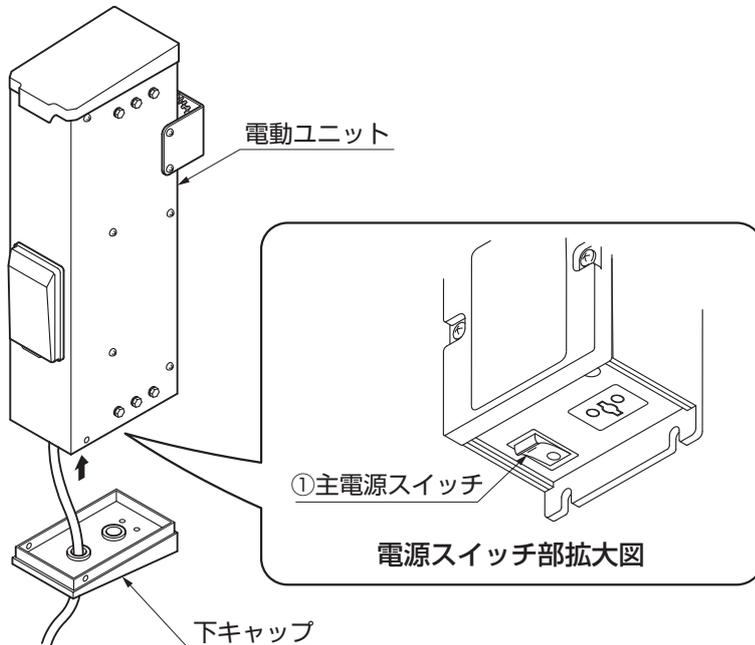
- ①配線カバーをガイド柱の任意の位置に電線ケーブルをおおうようにあててください。
- ②配線カバー端部キャップを配線カバーの下側にあて、位置を決めてください。
- ③下側の端部キャップを固定するφ3.5をガイド柱にあけてください。
- ④下側の端部キャップをガイド柱に【1-4】で固定し、配線カバーを端部キャップに差込んでください。
- ⑤配線カバーの上側に端部キャップをかぶせ位置を決め、下側と同様にφ3.5の下穴をあけ【1-4】で固定してください。

ポイント

- 配線カバーを現場に合わせて、必要な長さに切詰めてください。

11. 電動ユニット・コントロールボックスの名称および働き

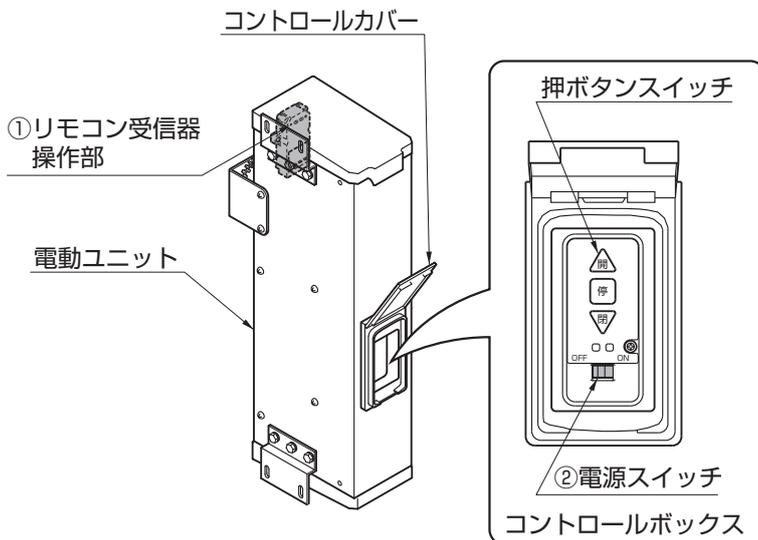
11-1 電源スイッチ



①主電源スイッチ

- AC-DCスイッチングユニットにある、電動ユニットの電源を「ON・OFF」させるスイッチです。「OFF」にするとすべてのコントロール機能が停止します。

11-2 各部の名称および働き



①リモコン受信器操作部

- リモコン送信器を登録、抹消するときに使用します。
(「14.リモコン送信器について」参照)

②電源スイッチ

- 手で引戸本体を動かすときに「OFF」にします。

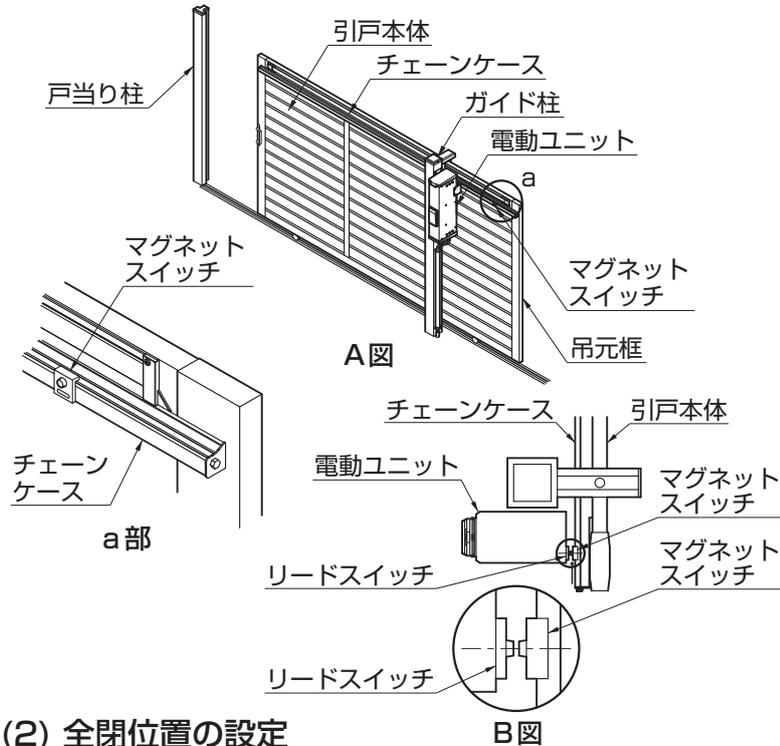
ポイント

- AC-DCスイッチングユニットにある、電動ユニットの電源を「ON・OFF」させるスイッチです。「OFF」にするとすべてのコントロール機能が停止します。

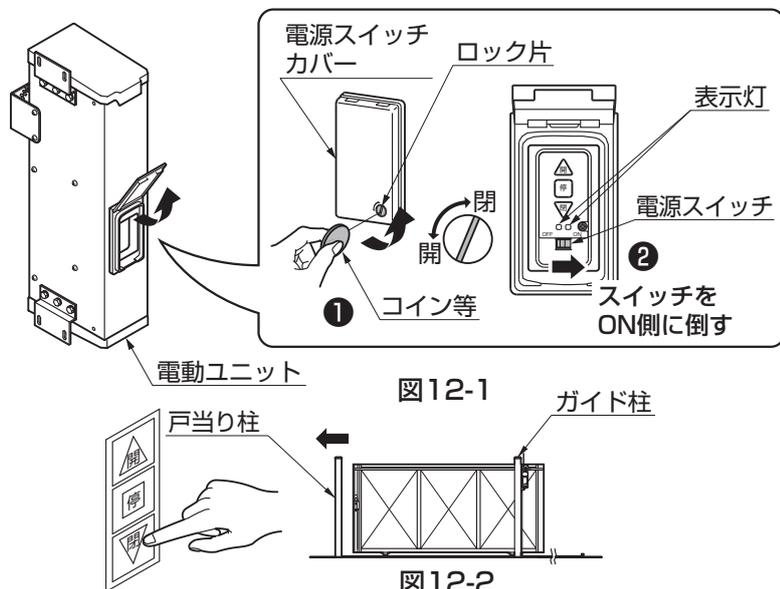
12.全閉・全開位置の設定と作動確認

12-1 設定前の準備

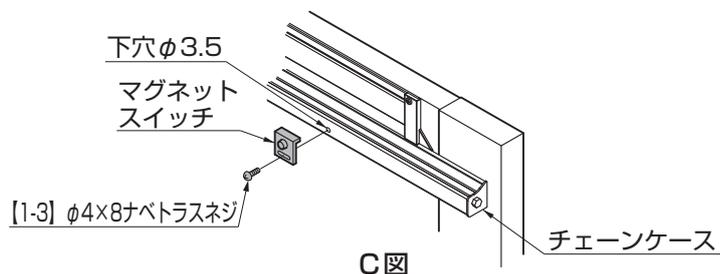
(1) マグネットスイッチの仮固定



(2) 全閉位置の設定



(3) マグネットスイッチの固定



- ① マグネットスイッチをチェーンケースの吊元柱側にのせてください。(a部参照)
- ② 引戸本体を手動にて全閉状態にしてください。

補足

- コントロールボックスの電源スイッチを「OFF」にしてください。(「13-2 電動で動かせないときの操作方法」参照)

- ③ 引戸が全閉状態の位置で、マグネットスイッチが電動ユニットのリードスイッチの中心に合うように、移動させテープ等で仮固定してください。(B図参照)

- ① 引戸を手動にて全閉状態から約1m開けてください。
- ② 電動ユニットの電源スイッチカバーを開け、電源スイッチをONしてください。(図12-1参照)
- ③ 電動ユニットの「閉」ボタンを押してください。(図12-2参照)
引戸本体がスロー作動で全閉し停止します。
- ④ 停止位置が合わない場合、仮固定したマグネットスイッチの位置をずらして停止位置を調整してください。

ポイント

- 引戸本体が一度全閉し少し開いて停止する場合、電動ユニットのリードスイッチとチェーンケースのマグネットスイッチの位置が合っていない。リードスイッチとマグネットスイッチの位置を再度調整してください。

- ① マグネットスイッチの位置が決まったら引戸本体を少し開き、φ3.5の下穴をあけ、[1-3]で固定してください。(C図参照)

ポイント

- 引戸を開くときは、チェーンケースにのせたマグネットスイッチがずれないように、ゆっくり動かしてください。
- [1-3]は必ず「手締め」で取付けてください。電動ドライバーを使用すると、下穴が破損し、取付けができなくなります。

12. (つづき)

12-2 全開位置の設定

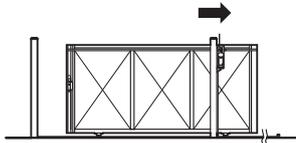
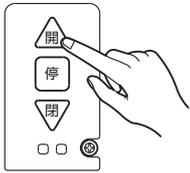


図12-3

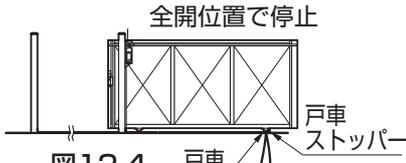
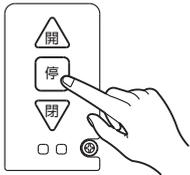


図12-4

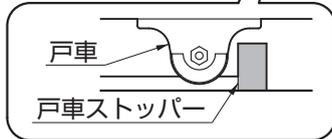
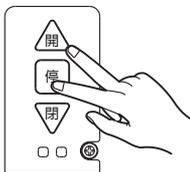


図12-5

- ①電源ユニットの「開」ボタンを押してください。(図12-3参照)
引戸本体がスロー作動で開きます。
- ②全開位置(任意)で「停止」ボタンを押してください。(図12-4参照)
引戸本体が停止します。

ポイント

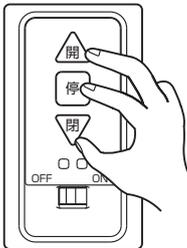
- 全開位置は、引戸の戸車が戸車ストッパーにあたる手前です。
- 全開位置は、「開」「閉」ボタンを押し、引戸を動かし調整してください。

- ③全開位置が決まったら、その場所で「停止」を押しながら、「開」ボタンを3秒以上押してください。(図12-5参照)
コントロールボックスの右側LEDが3秒点灯します。
- ④以上で全開位置の設定が終了しました。

ポイント

- 一度、開位置を設定すると電源をOFFにしても、開位置はクリアされません。
- 全開位置を変更する場合、一度全開位置をクリアし、再度12-1、12-2の操作を行ってください。

12-3 全開位置のクリア



- ①「停止」を押しながら、「閉」「開」を同時に3秒以上押してください。
コントロールボックスの右側LEDが点滅し、開位置がクリアされます。

12-4 作動確認

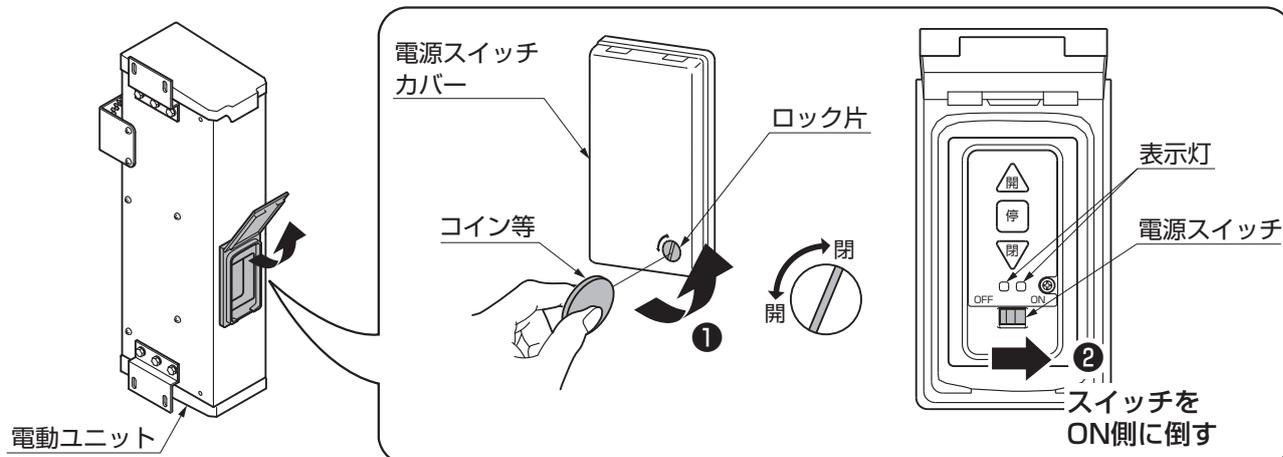
- ①「閉」ボタンを押してください。
スローで動き出し、加速し全閉手前で一度減速し、スローで全閉します。
- ②「開」ボタンを押してください。
スローで動き出し、加速し12-2で設定した全開位置で停止します。

ポイント

- ①、②の作動にならない場合、12-1、12-2の操作を再度行なってください

13.使用方法

13-1 電動ユニットに電源の投入



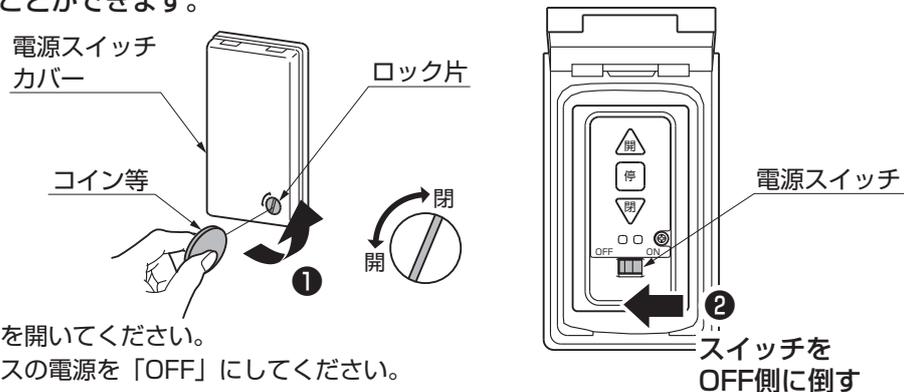
- ①電源スイッチカバーを開いてください。
- ②コントロールボックスの電源を「ON」にしてください。

補足

- 電源スイッチを「ON」後、電源スイッチの上にある表示灯が交互に点滅し、左側LEDが点灯します。しばらくたつと消灯します。表示灯が点灯しない場合はAC-DCスイッチングユニットの電源が「ON」になっているか確認してください。（「11. 電動ユニット・コントロールボックスの名称および働き」参照）

13-2 電動で動かさないときの操作方法

※非常時（停電・故障）など電動で動かさないときは、電源スイッチを「OFF」にすることにより手動で動かすことができます。



- ①電源スイッチカバーを開いてください。
- ②コントロールボックスの電源を「OFF」にしてください。

ポイント

- コントロールボックスの電源が「ON」のときは、モータによるロック（25～30kg）がかかっています。手動で引戸を開閉する場合は、必ず電源を「OFF」にしてください。「ON」のまま開閉すると、駆動部の破損の原因になります。
- 手動開閉には約7kgの力が必要です。

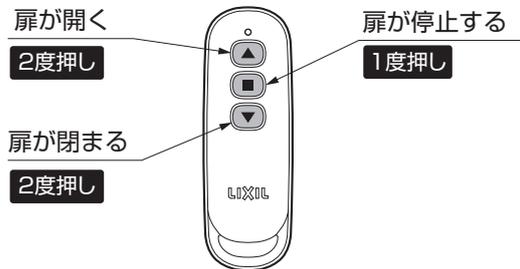
13-3 安全装置について

注意

- 引戸が作動中に人や車、障害物に衝突したときに、大事故を防ぐために安全装置が設定されています。
- 開閉作動中に安全装置が作動した場合、閉側は、約1秒間後退し停止します。開側は、その場で停止します。
- 安全装置が働く力は、10～12kgです。

13. (つづき)

13-4 リモコン送信器による操作方法



補足

- 作動途中で一時停止させるときは「■」ボタンを押してください。
- 一時停止位置によっては作動バランスの関係上、多少動くことがあります。
- 安全上「■」ボタンに限り1回押すだけで送信します。

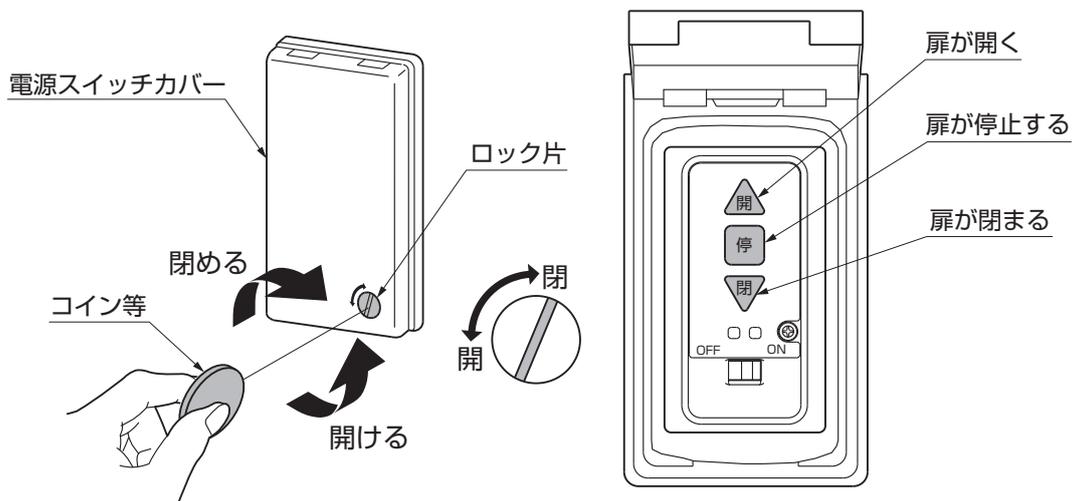
補足

- リモコン送信器の到達可能距離（目安）は見通し約30メートル以内です。
- 「▲」または「▼」ボタンの2度押し間隔が2秒を超えると送信されません。
- 「▲」・「▼」作動中に逆方向の操作をするときは、必ず一度「■」ボタンを押してください。

13-5 押ボタンスイッチによる操作方法

補足

- 押ボタンスイッチは、施工時・非常時やリモコン送信器の電池切れ時などに使用してください。通常はリモコン送信器での操作を推奨します。



注意

- 不用意な操作による事故を防ぐために、操作時以外はロック片を「閉」の状態にしてください。

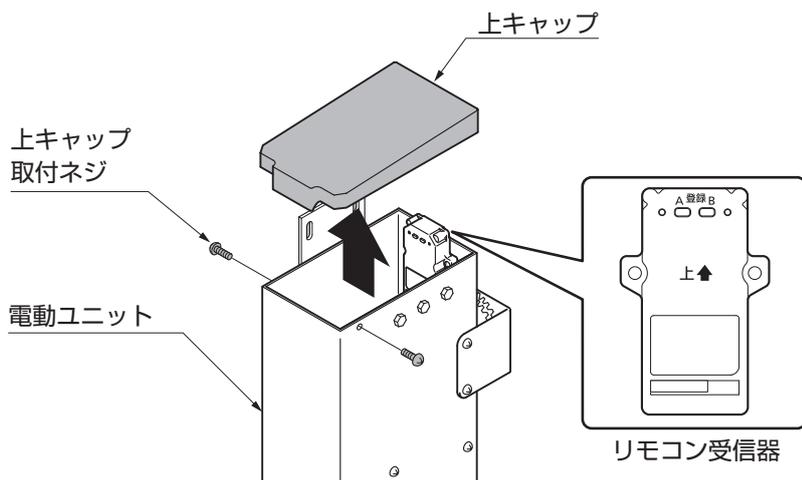
補足

- 作動途中で停止させるときは、「停」ボタンを押してください。
- 「開」・「閉」作動中に、それぞれの逆方向に操作する場合は、必ず一度「停」ボタンを押してください。

14. リモコン送信器について

14-1 リモコン送信器の登録・登録取消し

(1) 登録・登録取消しの前に



① 上キャップ取付ネジを取外し、上キャップを電動ユニットから上にあげて取外してください。

注意

●登録の際、アルミ材の切断面に注意してください。ケガをするおそれがあります。

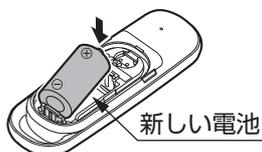
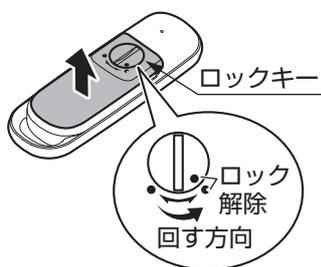
補足

●取外した上キャップ取付ネジは、後工程の登録完了後に取付けますので、無くさないように保管してください。

(2) リモコン送信器・電池の挿入/交換方法について

補足

- 初めて使用する場合は付属している電池を挿入してください。
- 電池を交換するときは古い電池を取り出してください。



① 薄くて平らなものを電池カバーのロックキーに挿入し、「ロック解除」の位置に回してください。



② 電池カバーをしっかり押さえながら、ロックキーを「ロック」位置に回してください。

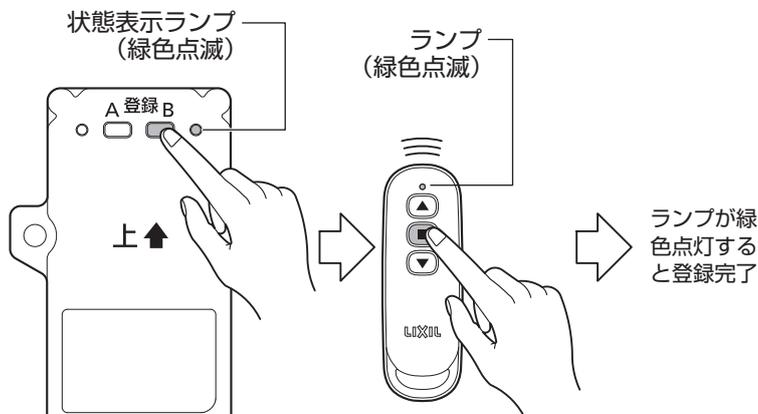
補足

※挿入/交換後、正常に機能させるために、次のことを必ずお守りください。

- 電池の極性「+」・「-」を確認の上、正しくセットしてください。また、水分やほこりなどが入らないようにしてください。
- ぬれたり、汚れた手で電池をさわらないでください。電池の接触不良となります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしないでください。
- 電極を曲げないでください。

14. つづき

(3) 登録 ※追加登録する場合も同様の方法になります。

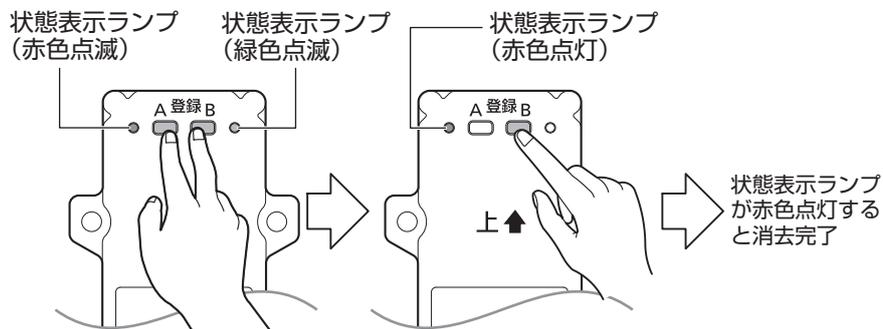


- ①リモコン受信器の状態表示ランプが緑色点滅するまで、「登録B」ボタンを約3秒間押します。
- ②リモコン送信器のランプが緑色点滅するまで、「■」ボタンを約5秒間押します。ランプが緑色点灯しリモコン送信器の登録が完了します。

補足

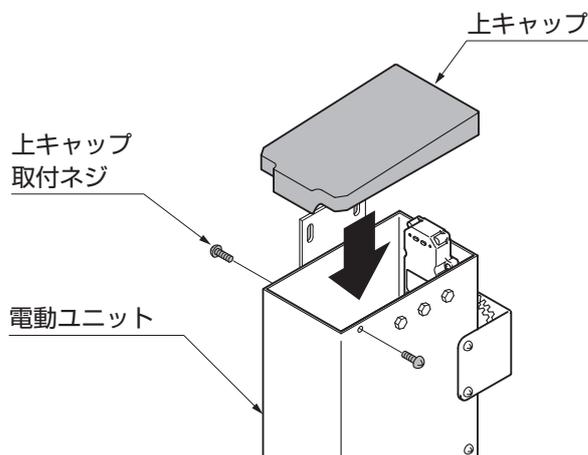
- 2台以上登録する場合は、①と②の作業を繰り返してください。
- リモコン送信器は、16台まで登録可能です。17台目は登録できません。使わなくなったリモコンを入れ替える場合は、リモコン受信器を初期化し、再度登録してください。

(4) 登録取消し ※登録されているすべてのリモコンを消去します。



- ①状態表示ランプが緑・赤色点滅するまで、「登録A」「登録B」ボタンを同時に約10秒間押します。
- ②「登録B」ボタンを押します。状態表示ランプが約2秒間赤色点灯し、リモコン送信器の登録が消去されます。

(5) 登録・登録取消し終了の後に



- ①上キャップを電動ユニットに上からかぶせ、上キャップ取付ネジで取付けてください。

15.施工の確認

15-1 作動テストと確認

①電動ユニットの電源をONにして、電動手動切替スイッチを電動側にしてから作動の確認をしてください。

項目	テストと正常作動	異常と対応処置
作動確認	押ボタンスイッチ・リモコンを操作すると、電動で動く。	(1) 押しボタンスイッチで作動しない ①電源スイッチをONにする。(「13-1」参照) ②配線を確認する。(「9-1」「9-2」参照) (2) リモコンで作動しない ①リモコン使用範囲・使用方法を確認する。(「13-4」参照) ②リモコン登録を確認する。(「14-1」参照)
全開位置設定の確認	全開・全閉で停止する。	(1) 戸当り柱にあたり少し戻って停止する。 ①マグネットスイッチを確認する。 (「12-1」参照) (2) 全開位置で停止しない。 ①全開位置を設定する。 (「12.全開位置の設定と作動確認」参照) (3) 戸車ストッパーに当たっている。 ①全開位置をクリアし、再度、全開位置を設定する。 (「12.全開位置の設定と作動確認」参照)
スロースタート・ストップ機能の確認 (※1)	スローで動き出し、加速し、スローで停止する。	(1) スロー作動のままで加速しない。(※2) ①一度、全閉状態にしてから再度、作動を確認する。 ②全開位置の設定を行なう。 (「12.全開位置の設定と作動確認」参照)
作動中の確認	振動・異音がない。	(1) ガタガタと異音、振動がする。 ①施工の確認をする。 (「7.全閉・全開の作動確認」参照)

補足

- 本製品は、インバーターモーターにより、スロースタート・スローストップの機能が付いています。(※1)
- 引戸本体が全閉以外の位置で電源をOFFにし、その後電源をONにすると引戸の作動はスロー作動になります。(※2)
スロー作動になった場合、必ず一度全閉状態にしてください。一度全閉状態にすると通常の作動に戻ります。
- 施錠したまま操作し引戸が動かない場合は、解錠して再度操作してください。

16.仕様

項目	仕様
入力電圧	AC100 (50/60Hz)
消費電力(作動時平均)	12VA
モーター定格出力	10W
開閉時間	12cm/秒 (例：有効開口幅350cmにて約30秒)
操作方法	押しボタンスイッチ、リモコン
リモコン到達距離(見通し距離)	約30m



補足

- リモコン到達距離は、周囲の環境や電波障害などにより、短くなることがあります。

取説コード

D571

JZZ624937D
201302A_1039
202012E_1049